

その43 出屋敷

(平成16年 2月 1日号—第229号)



73 東高野街道(出屋敷元町
1丁目)

京都の東寺と和歌山の高野山を結ぶ東高野街道。この街道沿いに江戸時代、田口村の枝郷として発達したのが出屋敷です。

集落の南側入口付近には東高野街道と彫られた高さ2メートルほどの古びた石柱があり、かつてにぎわった街道の面影が残ります。その向かいには、弘法大師が千度詣[せんどもうで]の折に休憩したと伝わる円通寺があり、村には大師が地面を錫杖[しゃくじょう]で突くと水がわいて出たという弘法井戸が今も残ります。

それにしても近年の変わりようはどうでしょう。大型バスが通れるほどの送水管が埋められた通称「水道みち」(府道枚方交野寝屋川線)が、集落のそばを通ったかと思えば、昭和58年には巨大な総合体育館が出現、平成15年には水道みちに立体交差する市道枚方藤阪線も開通しま

した。市の鳥となったカワセミを初め多数の野鳥がすみ、2月から3月にかけて330本の梅が咲き誇る山田池公園の拡張工事も進んでいます^{*1}。

弘法大師もさぞ驚いていることでしょう。



74 円通寺(出屋敷元町 1丁目)

^{*1} 平成19年4月現在、山田池公園拡張工事は一部を除きほぼ完了している。